

ほのかの里 桜丘
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800259		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	ほのかの里 桜丘		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80番地		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0175800259-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原則や決まり事をみだりに作るのではなく、お一人おひとりが自由でありのままにお過ごしいただけることを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ほのかの里 桜丘」は、四季を通じてお花見や紅葉狩りなどを楽しむ事ができる自然豊かな栗山公園の近くに位置している、1ユニットのグループホームである。建物内は広々とした造りで、窓に面した居間は明るく開放感があり、利用者はゆったりと居心地良く過ごせるようになっている。今年就任した管理者は、常に職員の意見に耳を傾けながら、利用者中心の温かなケアを目指して、日々向上心を持って取り組んでいる。栗山神宮祭では、敷地内に設けた祭壇に地域住民がお参りに訪れたり、事業所の夏祭りには多くの近隣住民の手伝いを受けるなど、地域との交流も深められている。食事は彩りや栄養バランスに配慮しながら、利用者の希望に応じて臨機応変に献立を変更したり、職員による握りずしを提供するなど、食事が楽しめるように工夫している。排泄の自立にも積極的に取り組み、全員トイレでの排泄を基本に、夜間もポータブルトイレを利用して排泄を支援している。入浴については、家族や利用者の意向に沿って週3回の入浴を実施したり、香りのある入浴剤などを利用して楽しく入浴できるように工夫している。職員は、各利用者が穏やかな日々を過ごせるように、細やかな気遣いを行いながら笑顔で寄り添っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の情報提供や申し送りカンファレンス等で話し合い、常に意識して理念を共有しサービス提供しております。	「地域と共に」という地域密着型サービスの意義を踏まえた内容を含む4項目の事業所理念を作成し、居間に掲示している。理念は、事例に沿って日頃から振り返りを行い、全職員で共有しながらケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所への散歩の時など挨拶をしたり、夏祭り、栗山神宮祭のおみこし参拝などで交流を行っております。	栗山神宮祭には、法人として敷地内に祭壇を設け、地域住民がお参りに訪れている。近隣からトマトなどのお裾分けを頂いたり、散歩で花壇を見学して、写真を撮らせてもらう機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや運営推進会議等において現在の状況説明や、認知証について意見交換などしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2回開催しております。外部評価の報告や計画停電時の対応や環境整備(畑の設置、一時避難所へのスロープの整備)の報告、各出席者様より意見を聞いてより良いサービス向上に活かしております。	今年度3回目の運営推進会議を、隣接する同法人のグループホームと合同で3月に開催している。役場職員や近隣住民、数人の家族が参加して、災害時の対応などについて報告が行われている。質疑応答の記録など、議事録の書式整備が課題となっている。	年間のテーマを事前に設定して家族に案内し、開催頻度が高められるように期待したい。議事録を充実させて全家族に送付する事で、家族が会議に対する理解を深められるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夏祭りの行事に参加して頂く他に推進会議では日々の利用者様の生活状況を伝えたり、助言等を頂いております。	運営に関する事や疑問点は、運営者が直接役場を訪問して相談している。管理者は、運営推進会議の案内を役場に持参したり、おむつ券の利用条件などについて電話で問い合わせしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成しており、常にカンファレンス等で話し合い、日々のケアに取り組んでおります。	日々の申し送りの時やカンファレンス、モニタリング時に、個々の事例に沿って拘束について話し合う機会がある。法人で、身体拘束ゼロへの手引きを準備しているが、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」項目部分が抜けている。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」11項目をマニュアルに整備し、全職員で理解を深めるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、研修等の資料を職員が目を通したりして周知を図っております。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っておりませんが制度について学ぶ機会を検討していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、御家族に質問や不安な事はないか確認し、説明をして理解、納得後同意して頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しております。家族の意見、要望は来訪時に聞いたり、現状の説明や今後の生活への意向をたずねたりしております。	家族が来訪した時に日々の様子を伝えたり、居室で話す機会を作り、意見や要望を言いやすいような雰囲気作りに配慮している。介護計画更新時には、事前に家族の意向や要望を聞き取っている。	家族の意見や要望を個別に記録して、職員間で内容を共有し、統一した対応ができるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時に管理者が話を聞いて連絡ノートに記載しております。全体会議の開催を検討しております。	管理者は、日頃から職員と相談しながら運営に取り組んで行く姿勢を持っており、常に各職員の意見に耳を傾けている。暖房器具の安全面について職員から意見が出され、運営者を通して今後の取り組みについて検討するなど、職員の意見や提案が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分に整備されていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある時は職員が一人でも多く参加できるように調整したり、その後研修内容を報告して不参加の職員にも波及しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流がないので今後機会がある時はサービスの向上ができる様に取り組みたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に担当ケアマネより生活歴等の情報提供を頂く。御本人と御家族と会い不安や要望等に傾聴し、安心に生活できる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今現在、困っていることや要望などを傾聴し、今後の経過はその都度話し合い、関係づくりを深めていきたいと思っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時など、御本人や御家族と十分に話し合い調整をしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、掃除などを一緒に出来る方、簡単な家事しかできない方、色々ですが、その中で役割を持って頂き、日々生活を楽しく送っていただきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から困っている事や不安な事など気軽に話して頂いたり、こちらが困っている事にも相談したり、小さな出来事でも御家族に伝えたりしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔過ごしていたご近所の方が1年に1回来訪されたり、御家族の協力のもとでお墓参りや買い物に出掛けたり、楽しんで外出されたりしております。	昔の友人が来訪すると、利用者は普段と違う表情をして喜ぶので、再度来訪してもらえるように声をかけるなど、関係が途切れないように支援している。家族の支援の下、選挙に行った利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者様方の会話の中で職員が間に入って会話を繋いだり、レクリエーションなどでコミュニケーションをとったり、支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くにお越しの際は立ち寄って頂ける様に声掛けしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人と御家族の意向を聞いてケアプランに反映しております。会話が困難な方は表情から御本人の意向を汲み取る様、努めております。	会話で思いや意向を把握するのが難しい利用者も多く、仕草や表情から汲み取っている。生活歴や趣味などの情報を、基本情報用紙やアセスメントシートに記録している。今後も定期的に、情報を更新する予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に基本情報の生活歴を確認し、御本人や御家族にも聞き取りをしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や水分・排泄チェック表、バイタル表を見たり、申し送り等で一人ひとりの体調の変化や精神状態を把握して職員全体で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをし、御本人や御家族の要望等を聴いて、職員と意見交換し、その方にあった介護計画を作成しております。	新規の介護計画は、1か月で見直している。定期的な見直しは、計画作成担当者が、家族や利用者の意向、職員の意見を聞き取って原案を作成し、数回に分けてモニタリングを行い、3か月毎に作成している。介護計画に連動した、具体的な記録は行われていない。	介護計画を意識した、具体的な介護記録になるように、書式と記録方法の検討に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを活用し、申し送り等で日頃の様子を細かく情報を共有しております。変化がある時は見直しもしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携の他、その都度、柔軟な支援をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、ご近所の住民の方に協力を受け支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望の病院を受診しております。訪問診療サービスの受診の方もおります。	協力医療機関や訪問看護ステーションと希望に応じて個別に契約し、往診や健康相談を受けている。かかりつけ医を継続している利用者の受診支援は職員が行っているため、主治医と連携した対応が行われている。今後は、医療記録を個別化していく意向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に報告し、相談しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に御本人の情報を提供したり退院時も看護要約ををいただいております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との連携で家族と十分な話し合いの結果、当ホームで看取り、永眠された方がおります。今後も医療と連携し、看取りケアを実施していく方針でおります。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成して、利用開始時に説明している。体調変化に応じて、家族と緊急時の対応について話し合いを行い、意向を確認している。主治医の判断の下、家族の意向を聞き取り、可能な限り看取りを行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の業務上でも職員の間で話し合っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春・秋の避難訓練を日中・夜間を想定し行っております。	消防署の協力の下、年間2回昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。今年度は、悪天候による開催日時の変更により、地域住民の参加は得られていない。災害備蓄品の保管場所や地域住民の役割分担、職員の救急救命訓練など、課題が残されている。	地域住民との連絡体制を整備し、役割分担の確認が行われるように期待したい。備蓄品を、現場で保管するような検討を期待したい。全職員で地震時などの対応について再確認すると共に、各職員が救急救命訓練を計画的に受講できるように期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けやプライバシーを損ねない声掛けを心掛けております。	利用者への呼びかけは「さん」付けとし、プライバシーに配慮した声かけが行われている。また、個人の記録は事務所に安全に保管・管理し、記録時も利用者に見えないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができない方は、表情や行動を見て声掛けをしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、御本人の意思を尊重し、その人らしい生活ができる様、支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ、自分で洋服を選んで頂いたり、御本人は気が付かない点はこちらでさりげなく直しております。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理の準備や後片付けを一緒にしております。	法人の施設長による献立をもとに、時折、調理法を変えるなどの工夫をしたり、事業所の畑で採れた野菜も加えている。利用者は芋の皮むきやもやしの髭取り、食器拭きなどを手伝っている。職員も一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の介護記録に記載しております。お粥やキザミ、ペースト食を提供している方もおります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後チェックを行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンを一人ひとり把握し、トイレ誘導しております。夜間は歩行が困難な方はポータブルトイレを使用しております。	全員の排泄表を作成してパターンを把握し、羞恥心に配慮しながら誘導して見守りや介助を行っている。適切な誘導や夜間のポータブルトイレの使用などにより、オムツやパッドの使用量の減少も実現している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食材を多く使用したり、乳製品を提供したりしております。適度な運動の声掛けもしております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日によって入浴しておりますが御本人の意向や体調不良の時は調整しております。	日曜日以外を入浴日として各利用者が週2回の入浴を行っており、希望があれば週3回の実現している。香りのある入浴剤を使用して楽しめるようにし、利用者が拒否することなくスムーズに入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の要望を聴いて、明るさや室温・湿度を調整しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書をよく読んで副作用を把握しております。薬の変更があった場合は連絡ノートや受診記録に記入し、申し送りでも職員全体に周知させるよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたレクやお手伝いをさせていただいております。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は積極的に散歩に出掛けております。	夏季は散歩して近所の庭を見せてもらったり、庭先の畑で野菜作りや囲いづくりを行っている。車いすの方も一緒に出かけている。冬季は通院や買い物での外出が中心である。年間行事では、栗山公園へのお花見や紅葉狩り、地域の夏祭りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームではお金を持っている方はおりませんが今後、対象の方が入居されれば支援していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人、御家族の希望がある時は支援させていただきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	塗り絵で季節の物を塗ったりリビングの窓から見える景色で四季を楽しめたり、その日の天候の変化がわかるようになっております。	共用空間には季節の装飾や利用者の写真、貼り絵、観葉植物などが飾られている。居間が広く、ゆったりとしたソファが置かれ、庭に面した窓も大きく、開放的で居心地のよい空間になっている。明るさや温度、湿度なども調整して快適に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で思い思いに過ごせる居場所は個々居室を利用しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人希望の家具を持ってきたり、写真を持って入居されております。	居室の入口に表札代わりの写真が飾られ、室内には、戸棚や小物類など馴染みの品物を自由に持ち込むことができ、安心して過ごせる場所になっている。壁にも、カレンダーや家族の写真などを自由に飾り付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、廊下に手すりが設置されており、個々居室の戸の横に御本人の写真を貼っております。		

目標達成計画

事業所名 ほのかの里 桜丘

作成日：平成 25年 3月 21日

市町村受理日：平成 25年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催頻度が多くでき議事録を充実させる。	開催回数が1回でも多くでき、議事録をより詳細に記載できる様に作成する。	議事録の書式の作成を行い記録者は詳細に内容を記入する。	1年
2	26	介護計画を意識した具体的な介護記録が行われていない。	日々の記録が介護計画に反映されるようにする。	日々の記録に介護計画の内容がより反映されている様に詳細に記入し記録の確認を行う。	6か月
3	35	避難訓練への地域住民の参加がない。災害備蓄品が現場にない。職員の救命救急が実施されていない。	避難訓練への地域住民の方への参加案内と役割分担を把握して頂き、災害備蓄品の補充と救急救命訓練実施。	地域住民への避難訓練の参加の呼び掛けをする。水や食料等の備蓄品の準備を行う。職員の救急救命訓練の受講を行う。	1年
4	10	御家族からの意見や要望を個別に記録し、内容を職員間で共有、統一させたケアをしていく。	御家族の思いや要望を職員全体で理解しケアにつなげる。	御家族の率直な意見や要望を職員がご家族とのやりとりで感じたこと、気づいた事等を「ご家族ノート」を作成し記録に残して職員が共有のもと実践する。	1年
5	6	身体拘束のマニュアルに禁止の対象となる11項目の具体的な行為が示されていない	すべての職員が禁止となる11項目の具体的な行為を正しく理解して身体拘束をしないケアの実践に繋げる。	身体拘束マニュアルに禁止の対象となる11項目の具体的な行為を明示し日々の申し送りやカンファレス時に職員間で確認をおこなう	2か月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。